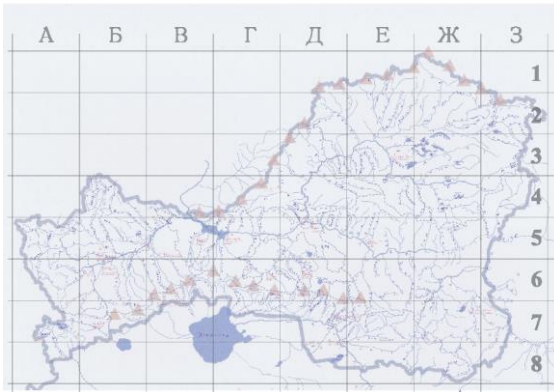


平成 25 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」
 に関わる共同研究の公募事業

シベリア・テュルク諸語による地名に関する資料調査報告書

等々力 政彦



目的：今回の調査では、平成 24 年度の研
 究で完成したトゥバ語地図のドラフト資
 料（北大提出済み、左の上図にその一部を
 示す）と地名一覧表を元に、1) 現地画家
 による絵入りのトゥバ語地図の作製、2)
 トゥバ及び近隣の共和国の地図研究者た
 ちと、現地語で作製する地図に関する意見
 交換を行うことを目的として実施された。

今回の調査地：

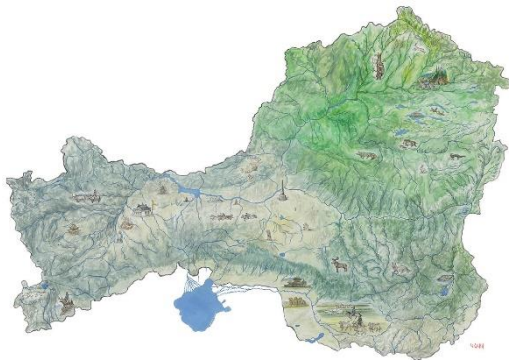
今回の調査では、南シベリアの諸地域
 を、かなり細かく、かつ網羅的に周るこ
 とができた。調査地は時系列に従って、

1. トゥバ共和国クズル市
2. ハカス共和国アバカン市/クラスノヤルスク地方
 ミヌシンスク市
3. クラスノヤルスク
 地方シザヤ村
4. ケメロヴォ州ノ
 ヴォ・クズネツク市
5. ケメロヴォ州タ
 シタゴル市
6. アルタイ共和国ゴル
 ノ・アルタイスク市
7. ケメロヴォ州ケメロヴォ市
8. イルクーツク州イルクーツク
 市
9. ブリヤート共和国ウラン・ウデ市
10. クラスノヤルスク地方クラスノヤルスク
 市



調査報告：

1) 現地画家による絵入りのトゥバ語地
 図の作製：地図のドラフト（左図）は、ト
 ュバ人画家サイン・チミド氏に依頼した。
 交渉は前年度より開始し、彼にはこの仕事
 の意義を十分に理解した上で、協力を快諾
 していただいた。しかしながらロシア国内
 の郵便事情により、あらかじめ時間に余裕
 をもって送ったはずの地図ドラフト用の



大型紙が先方に届かないというトラブルがまず発生した。このため急きょロシア内で紙を手配しなければならなくなり、また現地ではカラープリンターの便宜が悪いため、予定は大幅に遅れることとなった。なんとか年度内に制作が間にあい、シベリア渡航者(寺田亮平氏)のご協力で調査旅行終了後にドラフトを手渡しで受け取ることができた。到着後、そのドラフトを使って地図を作成するための本年度の科研費申請を行ったが、申請が通らなかった。したがって本年度(平成26年度)に入って、自費でスキャニング会社に依頼をおこなうこととなった。そのデータを元に、現在、イラストレータで地図上に地名を落とす作業を開始したところである。

2) トゥバ及び近隣の共和国の地図研究者たちと、現地語で作製する地図に関する意見交換を行うこと：今回、トゥバ共和国、ハカス共和国、アルタイ共和国、クラスノヤルスク地方、ブリヤート共和国において、地名研究者や歴史学者とディスカッションを行い、賛同を得ることができた。とくにロシア・科学アカデミーのブリヤート支部では、地名研究が進行中であり、かなり具体的な話しあいができた。今後、相互に協力しあいながら地名研究を進めるための人脈構築ができたと考えられる。

以上より、予定していた目的はほぼ達成することができた。1点、トゥバ人画家のドラフトに地名を入れた地図を完成する予定であったが、これは別の研究費をあてないと難しいことがわかり、先送りとした。

今回さらなる成果としては、まず希少本のデータ収集をかなり網羅的に行うことができたことである。内訳は、トゥバ語の初期言語資料(初期の文字資料から、現在の正書法が確立するまでの30年強のかなりを網羅)、トゥバの初期音楽本資料(初めての歌集から30年弱にわたる歌・音楽に関する本のほぼすべてを網羅)、南部アルタイ語の資料、シオル語の資料、ブリヤート語資料である。また、現在執筆中の「唐努烏梁海(たんぬ・おりあんはい)四旗之印」に関し、トゥバ共和国アルダン・マードゥル記念博物館のご厚意で、当該の印章を実測および電子天秤による質量測定などにより、詳細に検討することができた。イルクーツク市古文書館では、前回の共同研究時(2011年度)に台北市中央研究院で発見した漢文史料に見えるロシア人将校「馬利切夫」という人物が、秘書官 Секретарь の Я. Мальцев であることを、ロシア語公文書から確認することができた。ネガティブデータとしては、現在のアルタイ共和国にはほぼ比定される阿爾泰烏梁海(あるたい・おりあんはい)の歴史資料がアルタイ共和国の古文書館には全くないことがわかった。阿爾泰烏梁海に関する古文書は、今後、バルナウル市もしくはトムスク市の公文書館への調査の必要性を確認した。

さらに、平成26年度の研究課題を遂行するための、シベリア諸先住民言語による地名資料を多数収集することができた。

今後の展望：

先述したように、今回作成したトゥバ語地図のためのドラフトデータは、現在編集作業中である。トゥバ語による絵入り地図の原本が完成した時点で、印刷してトゥバ共和

国内において配布する計画である。また平成 26 年度の、スラブ・ユーラシア研究センターにおける研究によって、今後トゥバ語地図に加えてアルタイ語地図、ハカス語地図、ブリヤート語地図を順次作製できるよう準備をおこなってゆく予定である。

さらに将来は、ロシア連邦内の非ロシア言語による地図の作製が、現地においてどのような影響を及ぼしてゆくのか、参与しながらの長期観察を行なってゆきたいと考えている。